

令和 2 年度

事務事業評価表 ( 令和元年度 の実績評価)

記入年月日  
令和 2 年 4 月 15 日

事務事業名		認知症サポーター養成事業						事業区分		担当		
								新規/継続 単独/補助	継続 補助	事務事業No.	010604000997	
政策体系上の位置付け										所属課	040501	
政策体系	総合計画の施策名	0106	高齢者福祉の推進									高齢福祉課
	政策名	01	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり								課長名	
	施策名	06	高齢者福祉の推進								グループ	地域包括支援グループ
	手段名	04	④認知症への対応推進								担当者名	
財務会計上の位置付け							事業期間					
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	介護保険特別会計			単年度繰返し (平成21年度～)		
	06	05	05	01	01	00	任意事業			期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入		
法令根拠	介護保険法											

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要

手段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
	認知症を正しく理解し、認知症やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターを養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指す。	認知症サポーター養成講座の企画・立案 使用教材の準備、講座開催後の報告事務 桜川市認知症介護アドバイザー会との連絡調整

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
関係機関との連絡調整 教室の企画及び実施	教室の開催数	回	8.00	7.00	10.00	11.00	11.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
小学生以上の市民	小学生以上の市民	人	40,470.00	39,775.00	39,075.00	38,375.00	37,675.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
認知症サポーターを養成し、認知症の人やその家族を見守り、支援する人が増える。	認知症サポーター養成者数	人	303.00	251.00	340.00	340.00	340.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

		30年度	01年度	02年度	期間限定 総投入量	
		(実績)	(実績)	(計画)		
投入量	事業費 内訳	国庫支出金	千円 18	19	27	0
		県支出金	千円 9	10	14	0
		地方債	千円 0	0	0	0
		使用料・手数料	千円 0	0	0	0
		その他	千円 12	12	16	0
		一般財源	千円 9	10	14	0
		事業費計 (A)	千円 48	51	71	0
	正規職員従事人数	人 1.00人	2.00人	3.00人		
01年度事業費 実績 (千円)						
11 需用費	45			11 需用費	61	
12 役務費	6			12 役務費	10	
合 計			51		71	
合 計						

事務事業名	認知症サポーター養成事業	事務事業No.	10604000997	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
平成21年度より「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに認知症に関する知識や情報提供等を市民に啓発することを目的とし開始された。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
現在、依頼のあった小学校で養成講座を開催しているが、他の学校でもサポーター養成講座を広められるとよいのではないか。					
【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。					

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 認知症の高齢者は増加傾向にあり、地域で認知症を正しく理解し、見守る人が増えることは高齢福祉の推進に結びついている。
有効性	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 介護保険事業の地域支援事業として定められているため。
効率性	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある キャラバンメイトへの支援を行うことで、多くの認知症サポーター養成講座をすることができる。
公平性	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 市民への認知症の正しい理解の普及が図られなくなり、認知症の人や家族が安心して暮らしにくくなる可能性がある。
公平性	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) <input type="checkbox"/> 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業がない。
公平性	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 講座の講師は認知症介護アドバイザー(ボランティア)が実施しており削減余地はない。
公平性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 一般市民を対象としているので、公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)																				
(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																			
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	新たな対象(健康推進員等)に向けて養成講座を実施することができた。認知症カフェへのボランティア協力など今後サポーターとなった地域住民が地域で活動が行えるよう体制整備を行っていく必要がある。																			
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																			
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上維持		○	×	低下		×	×
		コスト																		
		削減	維持	増加																
成果	向上維持		○	×																
	低下		×	×																
20歳代~40歳代の受講率が低いため、若い世代が関心を持てるような講座内容を検討していく。サポーターとなった地域住民が地域で活動する場がないため、体制整備を行い、活動を周知していく。	(6) 事務事業優先度評価結果																			
	成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥																			

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項	
(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>